



豊後大野市教育委員会

会 議 要 録

会議名：平成 29 年度 第 4 回豊後大野市図書館及び資料館建設検討委員会

日 時：平成 29 年 12 月 16 日（土）9：55～11：48

場 所：豊後大野市中央公民館第 1 会議室

欠席者：田原靖憲委員、赤嶺信武委員

1. 開 会

社会教育課長	皆様おはようございます。定刻より少し早いですが、これより第 4 回豊後大野市図書館及び資料館建設検討委員会を開始させていただきます。まずは、教育長よりあいさつを申し上げます。
下田教育長	改めまして、皆様おはようございます。12 月に入ってもうすぐ年末を迎えるという時期になりました。このお忙しい時期、また寒い中に第 4 回の図書館及び資料館建設検討委員会のご案内を申しあげまして委員の皆様にはお忙しい中お集まりいただきましてありがとうございました。そしてまた渡部委員長をはじめ、今まで 3 回議論を重ねてきました。いよいよ第 5 回が基本的には最終ということで、基本計画書の基本に基づいたご答申をいただくということになっております。そういう意味では、限られた時間ではございますが、これまでの取り組み、話し合いの内容も含めて皆さんの貴重な意見を反映させていただければありがたいと思います。ちょっと個人的に新しいものを作るワクワク感が私はあるんです。皆さんはどうでしょうか。まあ難しい建物、大きな建物、いろんな意味で不安もありますけどそれぞれの思いが取り上げられない憤りだとか、そういうことも含めて検討委員をされていると複雑な気持ちになろうかと思うんですが、やっぱり素晴らしいものを作っていくという意味では、楽しみにしながら皆さんの意見を出していただくという方がより計画書の中に少しでも自分の意見が取り上げられるということによって、図書館建築に関れたんだというそういう思いも抱けるのではないかと、これは私のお願いなのですが、ワクワク感を持った中での議論をしていただけると本当にありがたいなと思っております。これは本

	<p>当に蛇足で申し訳ありませんが、どうぞ寒い中ではありますが限られた時間です。どうぞ貴重な意見をいただきたいと思います、よろしくお願い致します。</p>
社会教育課長	<p>続きまして、渡部委員長からごあいさつをいただきたいと思います。</p>
渡部委員長	<p>皆さん、おはようございます。本日は私の都合で今日になったということで誠に申し訳なく思っている。入試センター試験の会議と大きなイベントがあって、図書館の開館から 5 周年を迎えるにあたりちょっと大きな集いがあった。ワークショップであった。平田オリザという劇作家の人を呼んで、図書館の研修室で、わずか 50 人限定でワークショップをやらせていただいて、演劇をどう作っていくかというワークショップだったのだが、実は図書館をどう作るかとか、あるいはまちづくりをどうするかとかいうことと非常に共通性があって、その平田さんがおっしゃるにはイメージの共有化ができないと芝居ができない。図書館というイメージが皆さんに共有できないと、点でばらばらの、さっき教育長が言われたように自分の意見が取り入れられないとか色々出てきたりする。図書館という本来の基本的なスタンスを理解したうえで、その中で価値付け意義付けをしながらわくわくするようなものを作るということは演劇にとっても同じということを学んだ。非常に有意義な会議だった。ホルトホールの是永館長さんとも話をした。ホールの運営に関して私は館長さんから岐阜県の可児市というところのホールがとっても賑わっていると今まで無いようなホール改革をして賑わっていると、そういうことを平田さんの方から話題を持ちかけられて話をしていたら、私も平田さんと同じ様なところがあって資料館や文化施設としてホール以外にどこかあるかと言ったら豊岡市だと言うのだ。私も豊岡市には非常に興味を持っていて、そこはコウノトリの里という、ここでいうジオパークみたいな地域資源をいかした資料館があって、それがコウノトリ米を産出したりしてブランド化して今海外で注目されている。日本国内ではあまり注目されていないが、欧米の方々がどんどん来て非常に評価されている。ここはしっかりとした研究に基づく裏付けのある資料館活動をやっている。これは長い間の蓄積である。これが今静かに人々に伝わってきて価値が分かる方がどんどん増えている。そこともう一つ岡山県の奈義町という町も事例に出した。私も奈義町のことは知っているんだ</p>

が、そこにきちっとしたものを作ったら子どもたちをそこで教育させたいと I ターン、J ターン、U ターンも含めて集まってきていて人口が増えてきている。これは私が目指していることとイメージが共有できていると平田さんに言ったが、そうしたコンセプトをしっかりすれば人口も増える。そうした教育環境で子どもを育てたいということになってくる。その一番の文化的な環境が整っているところがもちろん東京だそうである。そこは、平田さんがおっしゃるには身体的文化資本という。本が揃っている、だからそこで学ばせたいということで一極化が進んでいるそうである。それに気づいた自治体は、お金のかかる物にお金をかける。だから文化を豊かにしてそういうインフラを整備すれば人口増に繋がっていく。多くの方々が企業誘致したいと言う形で、ほとんどそれに走っている。だけど、前も事例を出したが島根県の隠岐の島の海士町だとか瀬戸内海のいろんな島々の学校再開したところを見ると、そういうところに力を入れている。そういうワクワクするものを作れば豊後大野に住みたくなるということになってくると思う。私も色々思いをぶつけたが、私は 2,000 カ所とかのいろんな施設を見ている。その中で力のあるものを見れば基本に忠実、しっかりした地に足のついた活動をやっているということで、ここはこの間ワークショップを開いたということだが、市民の皆さんが協働で自分達が参加をしながらそれを作り上げていくという、そういう仕組みがあるということの方が元気なようなので、今回いろんなプランが出されているが、この骨組みに市民の方々が賛同され、後は市民の方が自分達で作っていきけるようなそんな道筋で、残されたものは市民の手で作っていくというような形で最後の仕上げをしていけば、数年後にはどんどん豊後大野市を訪ねてきてここに人が集まってくるだろうと私は思っている。そういう意味での議論をたくさんしたが、その今のまでの積み上げを大切にしながら、今までの議論を発展する形で、いい事例を参考にしながら最後の答申に向けて皆様の貴重な意見をいただきたいと思っているので、どうかご協力をお願いします。それと平田オリザさんに豊後大野のことをしっかり紹介したので、いつか来て下さると思うので、学校なんかにもかなり入っている。授業を受けたらワクワクするような、自分達が主人公になって学ぶという力を形成できる、学びの共同体という、そういう空間が学校現場や地域に広がれば、豊後大野が竹田とは違う、

	<p>杵築とも違うと、そうした資料館づくり、博物館づくり、図書館づくりができるのではないかと思って、少し話が長くなったが、お詫び方々開会に際しましてのご挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。</p>
社会教育課長	<p>ありがとうございました。それでは、会を進めさせていただきます。これまでの経緯について事務局小野からご説明申し上げます。</p>
事務局	<p>おはようございます。本日、事前に送付させていただいた資料と今日お配りした資料の確認をさせて下さい。基本計画書の案が1部と市民ワークショップの資料と平面図の資料。それに加えて2枚、基本計画書の中に入る資料となります、新図書館資料館ゾーンの資料と資料館部分の詳細な平面図等を書いたもの、今日はこれらをもとに協議をさせていただきたいと思います。前回 11/17 に第 3 回検討委員会が行われました。その中において平面計画の資料等をざっくりではありますが、お示ししてご意見をいただいたところです。特に展示計画についてこれまでなかなか議論が及ばなかったこともあるんですが、これまで概要として骨子をお示しして意見をいただいたところです。特に展示方法について、魅力的だけれども時間軸が分かりにくいという欠点があるので、工夫が必要ではないかという意見と、広さについて現計画で大丈夫なのかというご意見をいただきました。それらも踏まえて、今回詳細なものを提示させていただく会になるかと思います。私からの説明は以上です。</p>
渡部委員長	<p>事務局から説明があったが、質問等ある方はいるか。 皆さんはワークショップには参加されたか(何名か参加したという意見)。事情は多くの方が御存知であると思う。資料を見ると大変盛大だったようである。 経過についてはよろしいか。(異議なしの声有)</p>
事務局	<p>豊後大野市図書館及び資料館建設に関する市民ワークショップについてという資料をご覧ください。ここに 3 会場にて 12 月 2 日、12 月 3 日においてワークショップを開催させていただきました。多数の方の参加をいただきながら会を進めることができました。資料の 2 ページ目の神楽会館において 3 班に分かれて行いました。A 班においては中学生が参加した班、B 班 C 班はそれぞれ一般の方となっています。資料 3 ページ目の千歳保健センターにおいても A 班は中学生の参加、そして B 班 C 班につい</p>

	<p>ては成人の方の参加という形のワークショップということでもとりまとめています。次はエトピアで行われたワークショップで参加者は 35 名だったので 6 班に分かれて開催しました。そのうち A 班 B 班が中高生の班となっています。様々な意見が出たんですが、これは私の個人的な感想ですが、中学生高校生の意見が非常に新鮮で斬新だなということが多少ありました。一般の方においても積極的に参加された方が多かったので、こういうサービスができたらいいなとか、こういう居場所があったらいいのではないかとかいうご意見をいただきました。それを資料の 5 ページ目にまとめて意見を包括的にまとめ、概念としては“いろんな人の意見や情報として、つながり交流として豊後大野学びの森という実現”という形になりました。</p>
渡部委員長	<p>事務局からワークショップについてのご説明があったが、何か質問がある方はいるか。特に参加されてない方は資料をご覧になってご意見をいただければと思う。</p>
佐藤（珠） 委員	<p>子どもの斬新な意見というのは、どんなものがあったのか。</p>
事務局	<p>特に図書館の話の中で、現在進行形でサービスは行っているのですが、“建設を機に”というよりは、これをきっかけに今のサービスの在り方を見直して、今できることは今から行っても良いのではないかという発想がありました。つまり、新しい図書館ができてからそれに合わせてするのではなくて、今回出た意見で、すぐにでも出来ることがあれば行っていけばいいのではないかということだったのでハッとしたところです。</p>
渡部委員長	<p>よく議会なんかで子どもの意見を取りいれたりすることがあるが、子どもは将来一番使うユーザーなので、貴重な意見かなと思う。</p>
佐藤（珠） 委員	<p>もう一つ質問いいか。今こういう形で図書館に関っているんだと話をする、現在（特に中央）公民館の中で本を開いて勉強している子どもたちを収容できるスペースができるのだろうかという話が多かった。特に三重の方は口を揃えて言う。それで、その子どもたちにとってはそこが狭いからステータスになっていると、そこで勉強するのが。そういうことがあるので僕個人の意見としては、勉強は学校図書館とか家庭でやるべきなんではないかと。どうしても図書館を利用して勉強するという人たちが来るんであって、おそらく学校生徒が占有してしまうと一般の人やお年</p>

	<p>寄りが入りにくいスペースになるのではないかというのが僕の考えであるが、皆さんはその辺はどういうふうに思うのかお聞きしたい。</p>
渡部委員長	<p>私からこういう意見を言うのはどうかと思うが、1970年代から80年代にかけてそういう議論があった。子どもがどんどん学校にたまって、夏休みになると図書館で受験勉強している姿が見えると、図書館のイメージは受験勉強する場だと、自分の参考書を持ってきて勉強する場所だということが広がって、一般の方の利用が落ちていった。図書館が受験勉強する場だというイメージが広がると、一般の利用が停滞するというのは40年前に解決した議論である。図書館がまだまだ進展してない場所だとそういう議論が出る。だけどそういうこともきちんと踏まえていけば、個人的な感想でいうと、三重中学校や三重第一小学校などを見たが、豊後大野の学校図書館は他県に比べるとかなり充実している。学校教育と生涯学習を考えていくと学校における学びは学校図書館、放課後の学校の勉強以外の図書館利用というスタイルが、公共図書館の役割だということが今の落ち着きどころなのである。それを学校の教科書以外で深く勉強するという時は公共図書館の出番である。そういう方たちにも開放しつつ、赤ちゃんからお年寄りまでが来られるような空間づくりが必要であるというのが今の図書館の流れなのである。そこは豊後大野の見識で市役所の中の公民館に溜まってきているということは、学びの場を自由に使わせている部分が他市に比べて圧倒的に多いと思う。そういう中で、学校図書館で補えない部分をフォローする場所が、この新図書館のあり様だと思うのでそこは杓子定規ではなくて学校と公共図書館に時間帯を考えれば、学校には16時半までいて、それ以降の時間や夏休み、土日に対して学習環境に乏しいというのであれば、目くじら立てず、運用面でフレキシブルに対応するというのが今後の在り方ではないかと今までの議論で考えられると思う。これは私の見解だが他の皆さんご意見があれば。</p>
渡邊委員	<p>私は千歳のワークショップに参加して少し気になったことは、今まで市はいろんなものを作ってきたが、良いものを（作ろう）と思い、変わったものにしすぎて使いにくくなっているケースがあると。例えば、エイトピアおおの。エイトピアおおのは階段を斜めにしたりして、非常に変わっている。良いと思ってしたんだろうが、結果市民としては使いにくい。だから、シンプルで使いや</p>

	すいものにしてほしい。これだけは一番最優先で考えてほしいという意見が非常に強くあった。
渡部委員長	ごもつともだと思う。これは機能を重視して、梓設計さんも努力されていると思うが、機能とデザイン性と兼ね備えたもの、良い資料館だったりホールだったりということで、先程話があったが、岐阜県可児市のホール。これは使い勝手が良いので使う側の心をしっかり掴んでいる。いつ行ってもホールはいっぱい。普通、ホールはイベントがある時しか使わないが普段行ってもいっぱい人がいるので、そこは今後のソフトの問題とハードの部分を調整できればうまくできると思うが、今の意見は非常に貴重なご意見だと思うので梓設計さんよろしくお願ひしたい。
佐藤（和） 委員	先程学生や子どもたちの図書館の利用ということがでたが、やっとな豊後大野市の学校にエアコンが入って、図書館にも大きなエアコンが入って通常の学生はそれで出来るんだが、学校は土日が開いていないので、その時は公共の施設を開放しているのはとってもいい環境に子どもたちがあることだと思う。新しい図書館に期待している子どもたちの声は私も聞いたことがある。将来、豊後大野市を担っていく子どもたちの声も大事にしないとイケないと思う。
渡部委員長	学校図書館との連携のキーワードは、学校図書館を支援するというのがあって、ソフト面ではそういうことも準備しないとイケないというところで、ハード面ではエアコンをつけるということで、だんだんと学校図書館も充実してきて、そこに人が入って“流通”という巡回車で車を回して公共図書館とのネットワークを作るというのが、今の新しい図書館の形。その学校図書館との着地点をどう考えるかが今後出来上がった後にソフト作りが必要かなと思う。ワークショップについてはよろしいか。では、次の議題に移る。
事務局	続きまして、基本計画書案について協議していただきたいと思ひます。この資料、基本計画書案は今年の 3 月 27 日に検討委員会の皆さんで議論していただいた答申をもとに具体的に踏み込んだ形で、基本計画設計に繋がるような足がかりになるような基本計画書という位置づけで諮問させていただいているもので、目次の 1 番から 8 番までをとりまとめました。1.はじめには今までの経緯について、2.新図書館・資料館の配置と規模については答申書の内容を踏まえて議論した中で 2030 年の市の人口規模を推計

	<p>して再度計算したものです。次のページは、新図書館・資料館の配置については A 案から D 案まであって、それぞれ長所、短所がありますがこれまでの議論を踏まえて総合的に判断して B 案がいいのではないかとということで、新図書館のゾーニングにあっているのではないかとということになります。3 ページ目は各部門の機能と面積についてです。これも答申書にありました、図書館についての 65 項目をまず押さえて、施設の中でどのように展開ができるのかを面積とともに説明文を添えました。その他資料館についても同様です。次のページは、新資料館の展示計画です。前回は議論していただきました。後程質疑等は受けますが、歴史の流れが分かるような設えを検討する、まさにコンセプトになるようなものを載せています。6,7 ページは展示方法について記載しています。展示方法については、実物展示、パネル展示、モニターを使う場合もあるでしょうが様々な展示方法を駆使して豊後大野市にある遺物等を見ていただき、学習していただくような展開になっています。8 から 16 ページまでは豊後大野市内にある遺物、豊後大野市に関りのある遺物を載せています。分野別、歴史毎に並べていて、これらを展示する時の展示方法の中身にもなってきますので、これも載せたいと考えています。18 ページは資料館のレイアウトです。展示平面図と対になるものです。19 ページ目に事業計画、工事、展示、家具、什器も必要になってくるので、その面積規模で建築改築工ことを行った場合、これくらいの経費になると試算しました。事業スケジュールについては、図書館については平成 32 年の 9 月、資料館につきましては平成 33 年の 1 月を目標に準備を進めていきたいと考えています。右側の 5 は載せられる部分だけ載せています。休館日、職員体制、ランニングコスト試算、これらを掲載させていただきたいと思っております。私から説明は以上ですが、トータルメディア研究所さんから展示計画の説明の補足をお願いします。</p>
トータルメディア研究所	<p>基本計画書の 6 ページと 7 ページは、資料館と話を詰めたゾーニングの案です。前回、コンセプト的なことを策定させていただいたんですが、そこからさらに学芸員さんを含めてゾーン構成を検討してまいりました。6 ページ目のゾーン 1 は「9 万年前の阿蘇の火山噴火」、ゾーン 2 は「豊後大野の大地」、ゾーン 3 は「豊後大野の産業」、ゾーン 4 が「豊後大野の自然と人との暮らし」、ゾーン 5 が「豊後大野の歴史・文化」、ゾーン 6 が「通史考古歴</p>

	<p>史資料」、ゾーン7が「野田コレクション」となっていて、大きな自然、大地と人々との関わりをひも解きながら基本的な通史展示もきちっと整理するという事で、大きなテーマを検討してまいりました。それを平面図に落とし込んだものが18ページ、資料館のレイアウトという大きな動線と配置を表しています。ゾーニング図を説明しますと図書館と資料館の間に大きなエントランスがありまして、そこから右の方に展開していきます。導入部は開放的で出入りがしやすい入口出口を兼ねたオープンなスペースとなっています。そこに受付とカウンター等がありまして展示のガイダンスや展示の警備、それから事務スペースがあります。その上にゾーン1、2,3,4,5、という形でテーマを振り分けて大きなコンセプトを要するようなゾーン配置にしたいと思います。ゾーン6がいわゆる通史展示で、考古歴史の時系列の展示を表現しました。ゾーン6は企画展示室としても利用するという事で資料と収蔵庫を密接に連携させて、展示資料の出し入れを多目的に使える部屋として考えています。野田コレクションはゾーン7に配置し、大きな地球の歴史を踏まえて野田コレクションを紹介します。その隣には談話室と多目的室を配置し、時にはそこで小規模な企画展示ができるような空間にしたいと考えています。学芸員さんからの要望としては、日常の様々な研究スペースや企画展示やイベント準備の為の作業空間といったものを展開したいという要望がありましたので、作業室を配置しています。資料の搬入ということでトラックベイアウトの前室、収蔵庫と遺跡に係る資料を有効的に配置した空間をとりました。2階には収蔵庫の面積を確保しようということで、1、2階に収蔵庫を配置し、多目的室でワークショップ等いろんな活動ができる拠点というレイアウトにしました。</p>
渡部委員長	確認だが、議事の(2)基本計画書案と施設全体の平面図については一緒にするのか。
事務局	はい、一緒でお願いします。
渡部委員長	今説明していただいたが、ポイントが1つあって事務局の方から提案があったA、B、C、D案だが、これが決まらないうちでどういう展開になるかが分からない。B案に決まったという前提の場合の話なので、B案でいきますという確認をここでとらないと話が進まないんじゃないかと思うが(事務局、了解)。今のトータルメディア研究所さんの説明もB案に沿った形の提案だったとい

	<p>うふうに理解したがよろしいか（事務局、“はい”）。最初からやっていくのにメリハリをつけないといけないので、きっちり議論しないとイケないところと、今まで確認できたところは、先にご了解いただいたものということで話を進める。それで、順を追っていくと、“1.はじめに” というところは（基本計画書）今までの経過ということでよろしいか（全員 了解）。“2.新図書館・資料館の配置と規模” というところだが、以前佐藤委員から人口の推移について議論があったが、ここは将来に成長する図書館であれば、人口が増えてきて新しい図書館を作らないといけないという要望が出てくることを期待して、市の財政事情等も考慮して、この今の案というのは前から資料ででていたのでこれで良いのではないかと、いかがか。いずれにしても数値をもって示して、文科省のホームページに望ましい図書館の基準というのが出て来て、一番最後のところに全国で基準の高いリストがでてくる。それからすると（本市のものは）劣るが、全国的な平均値としてはまあ基準であるので、今後市民要望が出て来て更なる図書館建設の要望が 10 年後 20 年後更に出て来てくるなどするかもしれない。これは事務局からの提案なので、皆さん方から意見があれば意見をいただきたいと思うがいかがか（異論なし）。これは今まで議論してきたことなので、これでご了承いただければそれで良いが、これはきっちりやろうとすると本当に基準なので、事務局の方に整理をお願いするということで私から申しあげたということで先に進めさせていただきたいと思う。事務局から説明があったが、B 案がダメだという意見があればどうぞ。どうしてもこれがいいという意見があればその根拠を示していただきたい。事務局は B 案の決めどころをコンパクトに説明して下さい。</p>
事務局	<p>まず、A 案が当初お示しした案に近い形になっています。A 案と B 案を比較しますと、当初の案は 2 階建でしたが、委員さんからランニングコストも意識しなさいと、エレベーター等がつけば維持管理費が発生するし、そこをうまく出来ないかということで、平屋で検討することになりました。当初“文化のプロムナード”をお話させていただいたんですが、その必要性について意見がでましたので、文化のプロムナードは共用部分で建物の中に入れたところと。そしてアクセスのしやすさ、駐車場の下の方から建物に入れるようにという意見があったと思います。アクセスのしやすさも変えたところと。その他を総合した結果、B 案になっ</p>

	たところですか。C 案、D 案は B 案からの派生と言いますか A 案、B 案を考えたうえでの位置づけとなっています。その他いろんな可能性を議論した中で B 案が良いのではないかとということでお示しさせていただいたところです。
渡部委員長	分離しているところがくっついて、真ん中のプロムナードに資料館がくるというイメージだと思うが、私個人的には文化のプロムナードは維持継続するのがかなり難しいのではないかと思うので、こちらかなと思ったが、現実的な話をすると図書館と資料館の閉館開館の時、資料館だけ開館する時に分離できるのではないかと思う。展示が繋がっているから。B 案よりも C 案や D 案の方が良いという方がいれば意見をお願いします。
吉岡委員	1 つ確認したいが、B 案のみ図書館スペースが一周できないように見える（途中で切れている）が、配置図で見ると通れるようになっているがどういうイメージなのか教えてほしい。
事務局	当初 A 案では“知識の回廊”として建屋で繋げていたんですが、真ん中の空いたスペースは管理上難しいのではないかと、ただ外には出られる仕組みにはなっております。あと、外にテラスがあったら管理が難しいのではないかとということで周りのテラスは全てどけているところです。豊後大野市には支所、エイトピアも含めて真ん中をくりぬいた形の施設がありますが、それらの利便性も考えて職員で知恵を絞ってこの形にしました。
梓設計	設計の方から少し申し上げます。基本的には中庭を囲むようにして図書スペースを配置したいと、そしてその中庭をぐるりと回るように知識の回廊と名づけまして、本を探して、いろんな本に出会うという空間を作りたいという元々の考えがありました。その考え方はそれぞれ、A から D 案には基本的にはその骨格を入れて作っています。離れている、繋がっているというのは、今までの議論があったうえでのものであって、全く行き来ができないという訳ではなくて、外にも出てまた中にも入っていけるとい、ぐるっと中庭を囲みながら移動ができるということは基本的にはどれも同じというふうに考えていただいてよろしいです。
渡部委員長	私の経験上からいくと、繋がっていると音も繋がってくる。子ども声を遮断できるというのが B 案には入っている。子どもは元気だから、途中で切れているということは大人のゾーンに声が入っていかないという、見た感じではそういうことになるので良いのではないかと。

吉岡委員	床面積の都合もあるのだろうが、一回外に出ないといけないのは、例えば雨が降った時とかに水害とかそういう問題がでてくると思うけど、その辺を考慮していただければどちらでもいいかと思う。単純に何故途中で切れているのかなと思った。行き来が不便でなければいいと思う。
渡部委員長	肯定的に捉えまして色々あると思うが、窓を開けると繋がるという場合もあり得るので、運用面で対応可能かなとも思う。
渡邊委員	中庭についての議論はあまりされないままになっていて、一応の案だからということで今まで来たような気がする。十分な議論はされてないと思う。現在の図書館にも中庭は無いが、親から見ると目の届く所に子どもがいた方がいいということが一つ。あと、渡部先生にお伺いしたいが、子どもがうるさくて困るというケースが全国的に多いのか。騒ぐような子どもはお寺に来て騒ぐので、離しても隣接しても一緒ではないかなという意見も聞いているし、子どもの利用はすごく多い。幼児とかは普通は黙って見ていると、親が、もし目を離して一般ゾーンに行ってもすぐ子どものゾーンに戻れる位置というか安心して見られるというか、中庭は本当にいるのかなと、かえって無い方が使いやすいのかなとも考えるが、先生の意見も伺いたい。
渡部委員長	子どもというのは赤ちゃん、赤ちゃん連れのお母さんが周りの目を気にして、赤ちゃんの泣き声はセーブできないから離れたゾーンにオムツを変えたりする場所があると来やすい。これは子育て支援とかいう形で若いお母さん方に配慮した図書館が人気があると、人口増に繋がったとかいう話もあったりしたので、そういう観点からすると騒いだ子どもは乱暴になることはないが、ひょっとして分離したら空間と住み分けができるので、これは多様な人達を受け入れるような対応だと思う。皆さんお気づきになってないかもしれないが、1970年代から1990年代までは、方形の機能型図書館だった。今は多くの人に来てもらうために個性のあるサードスペースであったり、いろんな居場所空間があるところが人気があるので、こういう形になるのは自然じゃないかと私は思っている。あと、図書館は開放的な自然光というのが非常に柔らかみを与えるというか場を住み分けしてくれる。そうなると、ガラス越しに見える環境というのは実現できているかなと私は思う。
後藤（順）	私はこれを見た時に、若い人からお年寄りまで皆が来られるよう

委員	な図書館として、ちょっと騒々しい子どもたちを分けるんだなと思って見ていた。私は B 案がとってもいいと思う。
後藤（綾） 委員	私も中の屋外テラスは、都市部ではあえて自然の空間とか、わざわざ外気にあたって子どもが外でというのも、目が届く範囲で外から遮断されているけど自然があつてという屋外空間でくつろぐスペース、喫茶店とかホテルとかそういうのをいっぱい取り入れてリラックスできるようになっているし、最初に豊後大野市で図書館を作る時に農作業した後に寄れるような感じでというのがテーマだったので、やはり汚れたままでも行って本が読めるということで、屋内の広い空間だけだとどうしても落ち着かない人もいる。こうした建物の環境の違いがある方が利用する人が多いと思う。
渡部委員長	ありがとうございます。屋外スペースは、新しいところでは徳島市立図書館がテラスを作っている。そこは、非常に人気があつてオーニングという布製のひさしがあつて、屋外用のテーブルと椅子があつて開放感があるということで、従来の箱型の図書館とは違う形を演出できると思う。今インターネット上で中庭のある住宅というのが宣伝されていて、家族皆が見える空間というのがあつて癒し空間だったり、サードスペースだったり、多様な空間があれば受験生だけが来るのではなくて老若男女いろんな方が読書に親しむスペースができるんじゃないかと思う。
後藤（綾） 委員	フレッシュランドの中とか病院の中にせっかく作っているのに、椅子を置いたりとかして工夫がされてなくて、ただ植物を植えているだけで枯れてしまつて使われなくなっているところが結構あるので、管理は大変だとは思いますが、いい使い方をすれば良くなると思う。
渡部委員長	そうである。これはソフトと運用の問題でして、病院の設計者さんもいろんな事例を見て作ったんだと思うが、それを動かす人に伝わってない、イメージの共有化が出来てないかもしれない。スターバックスなんかは屋外テラスで欧米なんかは屋外でコーヒーを飲んでいるというイメージを図書館にも演出するという訳だから、豊後大野には他にないかもしれないのでこれはこれでいいと思う。
藤内委員	先程、子どもの声がうるさいという話が出ていたが、子どもの声というよりも、菊陽町の図書館に前行った時に職員の方から聞いた話なのだが、読み聞かせとかをすると、それがうるさいと大人

	<p>の方から言われるので、そこはふすまを取り付けたりしたそうなんだが、なるべくならゾーンとして分けた方がいいと聞いたことがあって、ぎゃくし型になれば、端の方で読み聞かせをすれば間の空間がクッションになるので、うるさいとかじゃなく、少し和らいでいくので、そういったクレームも減ったりするのではないかと私は思った。</p>
渡部委員長	<p>そうである。今、日差しがさしているが、このガラスの中に和紙を入れると全然雰囲気が違うように、ダイレクトで見えるのではなくて音もワンクッションあって緩衝剤があって、漏れ聞こえてくるくらいならうるさくないから、漏れ聞こえるのも意味あることだからこうした問題は設計のところでクリアしていただいて、後は運用面とか司書さんの指導等で見守っていくというのが図書館サービスだと思うんで、全部を建物に任せるのではなくて人と建物が一体になった運営というのを今後このB案をもとに考えていこうかということになるろうかと思うが、いかがか（異議なし）。皆さんご了解をいただいたと思うのでB案という形でよろしくお願いします。後は（3）の各部門の面積等々について、これも建設検討委員会から前回の答申までを踏まえてずっと来たところで、そこに新たに加わったのが共用交流ゾーン等々、これもしかし並んでいるところがあるので、これも面積的には3,528㎡余りということになって資料館部分の面積等々は1,118㎡ということと、考えてみれば共用ゾーンを440㎡足せば1,500㎡の資料館、1,970㎡の図書館に440㎡の図書館ということになってドッキングしたもの。共用部分にはトイレだとかあるので、実質はそれぞれが黄色で示したり、資料館のところはグレーで示したり、1,118㎡がフルで使えるから、現実的にいくと、今緒方の歴民が700㎡で440㎡がプラスされてという計算になる。図書館においても旧三重町の現行の図書館の700プラス1,900㎡ということであるから、プラスアルファされたこんな形でご提案していただいたが、皆さん他に意見があるか。空間のイメージがこんな形ですけど、完成の暁に色々当てはめた時にこの部分は言葉よりは面積が広くなったり狭くなったりがあり得ることなので、その状況に応じて活かされてくると思うのでそれについて皆さんはいかがか。</p>
佐藤（珠） 委員	<p>細かいことを言うと、例えばレコードコーナーは音源をレコードではなくてハイレゾという歌手がいるかのように聞こえるとい</p>

	<p>うそういう装置も含めて、レコードは非常に素晴らしいと思うが、結構高価なものなので一般の人はあんまり耳に入れないと思うが、そういう物を含めた音楽ゾーンが少しずつ増えていくと、教育長さんが言われたようなドキドキワクワクした、図書館に行けば何か発展があるようなのを盛り込みたいなという感じがする。</p>
渡部委員長	<p>それも含めて一応これは枠組みであるから、これを認めていただいた段階で、次の段階の答申の最終段階の確認をして、これをベースにしないとまた前に戻って狭い空間になってしまうので、前回までの話だったら、御理解いただけると、項目としてどうかということの提案である。おそらく、前から議論がでていたことばかりなので、大枠としては特に面積配分、これについてご理解いただきたい。建物面積や展示室の問題は前に 350 m²等々とかあったし、その使われ方がどうこうとかあったが、企画部門を逆に多目的室も展示ができるように写真展等々を考えていけば広まるということもあるので、そこは配慮いただきたいと思う。私の経験からすると企画展示室は 100 m²超えると準備に 3,4 か月かかる。この部屋は 90 m²くらいか。これを企画展示でやろうとすると学芸員さんは 2 ヶ月くらい寝ずに仕事をしないといけない分量である。見る方と準備する方のギャップというのはある。そうした部分でいくと広さというよりは (以前の回で) 吉永委員さんからご意見があったようにグレードをどうするかという問題もあるが、面積配分についてはこういう形でよろしいか。</p>
渡邊委員	<p>ゾーン 6 について 768 m²の既存建物について展示部門というのはいくらあるか。</p>
梓設計	<p>ゾーン 6 で 150 m²くらい。ゾーン 1 からゾーン 5 までは 350 m²くらいで大体 600 m²から 700 m²くらいの展示の面積というようなイメージで考えています。ゾーン 1~5 は常設展示室。ゾーン 6 も基本は常設ですが、企画展示も行えるという考え方です。</p>
渡部委員長	<p>それは、展開図のところでも議論しよう。この構成は図書館と共用部分の資料館部分のこの構成でいいか (了解)。続いて、3、新資料館の展示計画として、4 ページから 5 ページについてご意見をいただきたいと思う。ジオパークが根底にあるということで大地の自然からそれを加工した人々の歴史等々を演出するというストーリーは前回ご説明していただいて、本物を見る、深めるという図書館との競合も考えてのコンセプトだがこれについて</p>

	はいかがか。
後藤（綾） 委員	豊後大野市のジオ関係は、なかなか館内に持ち込むことが限られていて、石像とか石仏とかになるとパネルとか写真中心になると思うが、1 回見ると解説とかもう一工夫ないと素通りされやすいと思うが、そういう工夫みたいのはあるか。
渡部委員長	<p>日本ではあまりこういう手法をとっているのは見たことがないが、神奈川県平塚の博物館でジオパークに非常に似たコンセプトで石はどこから来たかということで、市内に転がっているただの石ころを並べてそこからの解説がすごい。それが、ここまでに至る経過を丹念に解説しているゾーンがある。これは、面積というのではなくて今後資料をどう見せるかという説明に関わってくるので、学芸員の方は 2, 3 年正月も盆も無い状態だと私は思う。皆さんに魅力を伝えることになるので、枠組みはこういう形でというコンセプトで、今事務局の方々や豊後大野市外の方が外から見た時の豊後大野像を考えた時には、こういうものだということであり、ストーリー的には石ころを、例えば石垣まで広げていって豊後大野の石橋、石仏等々がどう広がっているかということを示す場で、裁断した石ころの見せ方とかもあるので、持って来れなくても、小さくして本物だということ、ルーペで拡大して見るということもあるので、そこはテクニックの問題なので、これは教育長さんに前から言っているように学芸員さんの方々に十分な時間と研修と、そうしたものが展示にいかされるとすると、今ある力量を更に研修等で積んでよそにないようなものができると思っている。これは、大体の枠組みなのでこれ以上に歴史上の何かがあるという方は意見をいただきたいが、よろしいか（なし）。</p> <p>では、次に展示方法として 6～17 ページまで膨大な資料だが、前回渡部委員さんからの意見で、それで展示のリストがこうになって、それをどう展示にいかしていくのかという資料としてのリストがこれだと思う。出来上がるものが、これがどう加工されるかは更に詰めないといけないと思うが、こうしたものをやらせていただきたいという事務局側の提案である。これ以外に忘れていたものがあると指摘がある方は意見を出していただきたいと思う。これを全部御存知の方はいらっしやらないと思いますが、何か抜けている物があるという方はご意見をお願いします。これを見ると資料館、博物館には 3 つのタイプがあって地域型と</p>

	<p>観光型と中央型というのがあり、地域のものを取り上げているという手法でいくと、よそから馬の角とかを持ってきたりとか珍しいものを持ってくるとかいう発想ではないので豊後大野にあるものをどういかにするかというストーリーだと思うので、おそらくこれは事務局の方もそうだが、市の文化財のリストが頭に入っているということか。</p>
高野委員	<p>ある物の中で私の判断がだいぶ大きいんですが、使えるだろう、見せるものに発展ができるだろうと判断していて、何か抜けているんじゃないかということは非常に気になることです。</p>
佐藤（和）委員	<p>こちらの方にはないかもしれないが、新田の方で 6 年生が歴史探訪をつい最近行った。その時に新田の中尾というところにカイモトカイジ、要するに大友氏の鍛冶集団がいてその鍛冶集団が作った豊後刀という刀を子どもたちと一緒に見たが、そういったものの展示も興味がある。</p>
高野委員	<p>抜けていました。素晴らしいものです。</p>
渡部委員長	<p>場所が限定されているので、全部ということは不可能である。それで手法としてはもう一つある。企画展という形。豊後刀とか刀剣展とかいう形で東京に日本刀剣博物館というのがあって、以前大阪城の博物館の館長が刀剣の研究で刀剣ばかり集めていらっしゃる方だが、時としてよそのものと比較しながら豊後大野の豊後刀を演出するというのは今後オープンした後になる。そうした情報を集めてどうなるかというのは今後のことになると思う。小中学生の力はすごいと思う。つい最近新聞やインターネットで見たかもしれないが、高校生がパーキングエリアで峨の雌雄合体のものを発見したが、これはすごい発見である。科学的なクラブの活動の延長線上だったが、早速それを地元の博物館に展示をするという方向できている。これは今からでてくるであろうという形では前に進まないで、今ある資料をどう活用して展示していくかということでスタートしないと、その上で担当の方が提案してくれているものなのでいかがか。</p>
渡邊委員	<p>先般、私の方から時系列的にさせていただくという話で、それに近くはなっているが、結局豊後大野市を売り込む場である。豊後大野市とは何かと言ったら、阿蘇のジオから派生して豊かな広大な大地が今日まであると、あとは長い歴史の中では土地を巡って南と北との戦いの場でもあったし、だから豊後刀の話もあったし、仏教遺跡や石塔も亡くなった方を供養しながら、祈り</p>

	<p>の町、庶民の祈りの町、広大な豊かな土地という具体的なものができたのが石橋だったり、磨崖仏だったり、その市の素晴らしさが伝わるような、流れにそって時系列になるといいなと前回申し上げた。だから 9 万年前の火山噴火から時系列的にもっときちんとした形になった方がいいかと。ジオパークの方に前半がいて、後半に歴史のものがきている形になっているんですが、ジオと歴史が本当は一体になった方がいい気がするんです。ジオのもとがあってこの歴史があるということが、日本のジオパークの事務局なんかもそこを注目しているのであって、あまりジオと歴史を離して展示しない方が流れとしていいのではないかと、この豊かな土地で長く住み続けるという豊かさというのをもっと表に出していいと思う。</p>
渡部委員長	<p>今の段階ではこういうものがあると、こういう展示ができるよということなので、料理にすると材料はこれだよということになる。この材料を使ってどう料理するかというのは、学芸員さんの仕事なのでそこは学芸員さんの専門性に任せるところで、ご意見はご意見として共にやっていくということではいかがか。</p>
吉岡委員	<p>資料を見ていただくとゾーン 1 からゾーン 5 までは、歴史上の地質と関係しているものを入れるように今検討しているところである。もう一つ気がついたところがあって、リストの中に動かせない磨崖仏というのがあるが、実は動かせる石塔とかもある。スペース的に石造物を全部中に入れる場所もないので、もちろん現地で保存できるものは現地で保存して石塔とか五輪塔とかは現地で保存した方がいいと思うが、すでに歴史民俗資料館の前庭に持って来ているものとか、中にいれなくても屋外展示みたいなスペースがあると、より現地で見るのと近いような感じで見られるということもあるので、平面図にはないが玄関横とかに巨大展示ゾーンなんかがあるといいかなと思った。それから、磨崖仏とかも模型を作って見せるのはインパクトがあつていいかと思うが、時間と予算がかなりかかるということだったので、3D 画像とかは比較的簡単にとれるので、映像を見せるとかそういう工夫をしていけばいいんじゃないかと思う。</p>
渡邊委員	<p>豊後大野市の石塔は大きいものが多い。2、3 メートルとかそれに合った実物大の写真でもいいが、代表的なものだけ写真で展示したらいいんじゃないかと思う。</p>
渡部委員長	<p>今展示の方法論について言っているのだが、今こういう材料でい</p>

	いかと、調理の方法はあとで議論するというので、後藤委員さんよろしいか。
後藤（綾） 委員	先程の石塔、五輪塔の話だが、県外から来た人にとってはただのお墓にしか見えない。ネットとかにも書かれていたんだが、現資料館の駐車場に石塔や五輪塔があるが、なんてバチ当たりだと怒っている方もいらっしゃるのでは扱いは重要だと思う。宗教的なものでそこに誰かが眠っているとかいう感じではないということも、まず、最初にそれを伝えないといけないというのがあると思う。
渡部委員長	そうしたことも十分配慮して、実施展示計画だとか実施作業の案が出て来ていて、具体的にこの壁に何を使ってどうやってするのかを考えて、相当下調べが必要である。それは、一般の方にはご理解いただけないかと思うが、事務局の学芸員のご支援をいただければと思う。さっきの展示仕様であるが、実は和歌山の県立近代美術館の委員をしているが、知事から要求があって、地方の美術館には限界性があると、以前企画展示費が 4 千万（円）あったが、子どもたちに本物を見せたいと、鳴門に大塚製薬が作った陶板でできた世界中の絵のレプリカ館があって、1 日 1,000 人くらい入るところだが、それを知事が見たと、その実物大のモナリザ像とかが溢れかえっている。それを陶板は高いから新しいメディアを使って実物大の物を投影できないかという装置ができないかと声明をいただいたそうである。これは、料理の話なので、気を付けないといけないのは、㎡ 30 万から 40 万の経費がかかるということで実現可能なことで、そこそこの台所事情によって考えて現実的なところで絞りこまれてくるので、今の段階ではそこにある材料を使うという話で、リストなので、先程佐藤委員さんが言われたように今後も市民の方からこんな物があるよということで期限を区切ってお計りするのもいいかもしれない。一応叩き台としてこういうものがあるよということでご了解いただくと助かる。17 ページまで終わった。次に資料の項目 4・5 の事業計画ということでこれが非常に重要になってくる。事務局、補足説明をお願いします。
事務局	資料 19 ページの概算事業費についてです。今までの議論を積み上げて当然お金がかかることです。この計算をするのにあたっては、最近の事情を考慮して、例えばオリンピック等があって需要が高まるなど、これは合併特例債という期限がついた事業に載せ

	<p>てやっていきますので他の自治体も類似の事業が始まるのではないかと予想しておりますが、予想での事業費です。事業費がないと議論ができないのでそれらも踏まえましてこの金額となりました。新築でいくと㎡が 50 万（円）くらいだろうと、改修も㎡ 20 万（円）くらいだろうと、展示につきましても展示工事が必要になってきますが、それも㎡ 30 万（円）くらいだろうという計算の積み上げで 19 億円ということになりました。事業計画については、先程説明しましたので、割愛させていただきます。</p>
渡部委員長	<p>これに抜けているところが、資料の 1 ページ目の新図書館の規模というところに繋がっていくところで、年間蔵書冊数という本の購入費が入っているかどうか、備品の中に入っているのか。</p>
事務局	<p>これは、あくまで建物の工事にかかる費用です。19 ページにも書いてありますが、図書館を維持する為の費用等はインシャルコストからランニングコストの経費とありますが、今回のインシャルコストの中の 19 億という経費は建物にかかる費用とご理解していただきたいと思います。</p>
渡部委員長	<p>ありがとうございました。19 億円だして、高いか安いかは皆さん分からないと思うが、私の経験からいくと、人口 9 千人の町で 15 億円の図書館を建築した。豊後大野市の今の財政状況から考えると市がこれくらいは出せるといったとこだらうから、これについて考えがある方はどうか。</p>
事務局	<p>委員長すみません。これ（19 億円）を、市が全部出せるという訳ではありません。これまでの議論の積み上げで、これくらいの金額になりますということですので、市財政当局からこれ（19 億かけてよいという）の確約を受けた訳ではございません。これは今後財政当局と詰めないといけません。ただし、これまでの議論があったと思います。金額から示して議論していくかどうかという話であったので、（積上げていって）求められる金額がこれですので、その部分をご了解していただきたいと思います。</p>
渡部委員長	<p>これで財政当局に、もしこの委員会でこれだけのものをやる時にこれくらいのお金がかかるということを伝える、そういう認識でよろしいか（事務局了承）。個人的に財政が厳しいんじゃないかというのでなくて、財布の中身を知らないとどんどん中身が小さくなるので、生涯学習や文化にはお金がかかるので、この委員会の計画案ということでの金額だと思うが、いかがか。今までの議論を踏まえた上での金額だと思う。</p>

	<p>次は資料館の展示平面図、ゾーニング分けについては先程の議論を踏まえた上でのことなので、B 案に沿った形の提案で、イメージとしては広大な感じでゾーン 1 から展示が始まってこんな形に整備するという提案である。これは、調査研究活動等々に資料が使えるかという問題があって、私が心配しているのが、軸丸の磨崖仏が資料館のところにある。それを持ってくるとなると、見せる形のものにすると、以前国宝修理所の方にお話を聞いた時に作業スケジュールの問題があって、これ（開館）に間に合うかと逆算した時に、お金の問題や先方の都合もあるからそういう事情も展示物にはあるということをご理解いただきたいと思う。ほかに無いか。</p>
吉永委員	<p>展示のことについては学芸員さんの問題で色々いうことはないが、木造物の考えとしては、修理した物を展示して県からの補助金も貰ってやるとなるとスケジュール的には大変だなと思う。</p>
高野委員	<p>まず所有者が地元なので修理費の半額負担は多分出来ないと思うので、市に寄付をできるかどうか聞いてみたいと思います。非常に信仰が関わるものですから、寄付は困るという可能性が出てくると思います。さらに地域の思い入れが強いので、緒方町から出ていいのかという議論が当然出てくるとは思います。それはあやふやな状況です。毎年お正月前にお餅を持ってお参りをして下さいますので、それを新しいところへ持って行っていいのかという話はまだできておりません。ただ、展示するにあたっては、修復をするか、修復できなくても虫がついていたりするとまずいので、虫殺しという高額なお金をかけていけないといけませんので、非常に困っているところでもあります。また、豊後大野市は財産を譲り受けるのにかなり維持費がかかるので、そこでもらっていいかどうかの判断も厳しいが出てくるかと思うので、移せない場合は新館での展示は厳しいかなと思っております。</p>
渡部委員長	<p>今吉永委員さんや高野委員さんが言われたように、人が介在して地域のお守り（神）であったり、いろんな問題が一つ一つの展示に影響してくる。だから、それを詳細にそのスケジュールに間に合うようにお尻がいつかということ、お金の算段や他の修理や展示をどうするかということも詳細な設計がいる。そうして逆算すると県指定の物を移動するという手続きが必要であったりとかがあるから、これまでリストにあったものを 1 つ 1 つ動かせるかどうか吟味しないといけない期間が必要なもので、こういう</p>

	<p>方針にご異議がなかったら、イメージとしてはこういうものがあるということをご共有しないと、中には変更になる物もあり得るので、おおよそこういう壁を使うというイメージだがこのことに関してご意見があればお願いしたい。これは、事務局側の提案なので。ちなみに、私もこの間招待を受けて県知事とともに出席した、徳川頼貞が記帳した音楽史のコレクションを読売（新聞）が持っている、これを所有物は変わらないで寄託するという形。寄託といっても、受けた方がお金がかかって整備しないといけない事情があるので、この仏像も含めて寄託とか市のものになる移管とか所有者の移転等々の手続きとかがあるのでなかなか難しい問題がある。資料館の所蔵資料だったら割合簡単だが、そういう諸々の部分をどうクリアしていくか、でもこういう形でやっていくということに賛同していただかないと前に進まない、これはまずいというような意見があったらいただきたいと思う。もっと、ダイナミックな展示が必要だとか。これは、調理の問題ですので、ひょっとしたら新しい案が出てくるかもしれないが、そこは学芸員や事務局の方を信頼して皆で作ったという形にしないと。なかなかこれは、全部事務局の方に投げかけてしまうと土台無理な話で、こんな印象を私は持っているのだが。ただいろんな展示資料があるということは、トータルメディア研究所さんは全国で手掛けているので、どこか変わったところの情報なんかをいただくという形でやれば新たな物が構築できるかもしれないが、今考えている案というのはこのオーソドックスな案という思いだがいかがか。今後も何かご提供していただければ。</p>
トータルメディア研究所	<p>これから、基本設計、実施設計、製作という中で細かい手法というのがいっぱい出てくると思います。今回のプロジェクトで言うと大きな物を小さな展示室に入れないといけないとか、人と自然とのつながりだとかいうのを見える形にしないといけないという課題があるんですが、私どもの一例とすれば情景再構成という手法がありまして深川の資料館や江戸博で使われている手法なんです。大きな空間を小さなところに移す時にもう一回その特徴をよく見えるように配置を変えて再構成するというやり方があります。場所を移動するんですが、特徴は変えずにそのエッセンスだけを配置するという手法があり、今回人と自然とのつながりということ言えば、三重（県）の総合博物館で見られるような配置上バームクーヘン型にして周りのものから自然に至るも</p>

	<p>の環境をどんどん広げていくようなやり方とか、または小さな範囲でいけば映像や展示を使いながらそれぞれの環境を作っていくとか、手法はこれからも色々あると思います。</p>
渡部委員長	<p>私も江戸東京博物館の館長の竹内誠さんは恩師で、三重の館長さんは滋賀の琵琶湖博物館の布谷さんが館長をされていて、情報もいただいているが、ただ予算面も㎡ 30 万（円）の限界性があるので、そこは後輪的に効果をあげる手法を提案していただければ、実は事務局の方もそこに行っていただければ、深川の船の木材の資料や下町民俗資料館等々も非常に評価をいただいているので、そうした工夫が今後求められるかもしれない。大きなものから小さなものまであるので、たかがこれくらいの面積とは言っても非常に力が必要である。そこは、事務局の方を私共も支援して情報提供していただければと思う。</p>
吉岡委員	<p>色々手法はあると思うので、一応ここでは資料館の学芸員さんの意見も入れてこういうスペースをとりあえず確保したので、こういうスペースがあれば、例えばこんな展示も可能になるよという提案だと思うので、後の中身についてはおまかせをして頑張ってもらおうということで、展示する資料の新発見なんかはいろんな情報を市民の方から得て参考にしながら、高野係長をはじめ学芸員さんに頑張ってもらおうしかないと思うので、展示の中身についてはそんなにこだわらなくてもいいんじゃないかと思う。</p>
渡部委員長	<p>ごもつともである。それほど準備するものが多いと学芸員さんが大変な準備をされるからそれを事務局の方も見守っていただけて十分仕事ができるような環境を準備していただければ。今日はこんなイメージでやるよということで、小さなディテールに関してはこれから修正していただけて、あとは料理をどうするかというのは学芸員さんに委ねるということでいかがか（了承の声有）。4.のところの絵にしたものは先程の展開図をイメージしたもので、これは B 案を絵にしたということでご理解していただきたい。</p>
後藤（順）委員	<p>駐車場が狭いかなと思っていたが、何台くらい止められるのか</p>
事務局	<p>15 台とバスが転回できるスペースがあります。</p>
渡部委員長	<p>それとプラス市役所の駐車場とか、土日にそこで吸収できるようなものも添えていただけると、これだけでは少ないというのが分かると思う。それと、もう一つ皆さんご理解していただけない</p>

	<p>いかもしれないが、図書館の利用というのはいっぺんに来るとい う訳ではなくて、20 台 30 台が一日中あるという感じなので時間 帯はオープンの時はいつもですので、公民館やホールのようにイ ベント等があって一挙に来るような感じではないということをご 理解いただきたい。ここは集約的に駐車場が確保できているの で、もし図書館や資料館に来たら市役所の駐車場も使えるし、周 辺の場所を使えるのは非常にメリットが大きい。私も外からそう いう判断をしている。ほかに意見は無いか。今日の議題はよろし いか（よいとの声有）。最後に 5 のその他のところを事務局から ご説明をお願いします。</p>
事務局	<p>ご議論ありがとうございました。その他、今後のスケジュールに ついてご説明します。予定通り 1 月 26 日に第 5 回検討委員会 の開催を予定しております。委員長にご了解していただきたいん ですが、概ね本日御了承していただいたということで、これはまだ 完成ではありません、本日皆さんにご議論していただきたい部分 はほぼ終わりましたので、例えばパブリックコメント等基本計画 案が答申された後に付け加えられるものになっておりますので、 一応この案を固めた上で年明けには皆さんに郵送で送りたいと 思います。それをもって、ご意見等があれば個別に言っていただ きたいと、大枠はこれで決定とさせていただこうと思います。細 かい部分について誤字脱字等がないかご一読していただき、直接 ご連絡してもらって、1 月 26 日の第 5 回検討委員会で教育委員 会に対して答申という形をお願いしたいと考えております。委員 長いかがでしょうか。</p>
渡部委員長	<p>今日のところは今までの確認作業と、それを踏まえた次の段階の 確認協議をとということだったので、今の説明の通り異議がなけれ ばこれで終わりたいと思うがよろしいか（異議なし）。では、ご 了解いただいた。</p>
社会教育課長	<p>渡部委員長ありがとうございました。皆さまも貴重なご意見あり がありがとうございました。それでは、本日の第 4 回の検討委員会はこ れで終わります。最後に下田教育長があいさつ申し上げます。</p>
下田教育長	<p>長い時間ご討議ありがとうございました。お陰で冒頭に渡部委員 長が仰っていたイメージを共有化してもらおうというその作業が 十分にできたのではないかと思います。そして、たくさん皆様か らご意見をいただきましたので事務局の方で今日の内容を整理 して年明けには答申になるものをお送りしたいと思います。ぜ</p>

	<p>ひ、一度目を通していただいて個別にご意見をいただければありがたいと思っております。次回答申をいただくということになりますので、そういう意味では今日の原案をそのままいただくという形になろうかと思っておりますので、今日の議論を振り返っていただいてこの部分はということがあれば、事務局にお電話またはお手紙等でいただければと思います。間もなく今年も終わりますので、良いお年をお迎えください。本日はありがとうございました。</p>
社会教育課長	<p>皆様ご協力ありがとうございました。本日はこれをもって終了とさせていただきます。</p>